

衣のNGO

ふるぎのゆとをいかけ?

# JFSA

またかたらしをささえる

せかいのまさとさをかんたえる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会  
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10  
Tel・Fax : 043-234-1206  
E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp  
ホームページ : <http://www.jfsa.jp.org/>

会報 44号 2017年9月

## 特集 パキスタン派遣報告

良い仕事のできる有能な女性も多くいます。パキスタン社会では非常に難しいことですが、女性が働ける社会になると良いと考えています。(アル・カイルアカデミー タスニーム副校長)  
……派遣報告(6~7p)より



授業中のアル・カイルアカデミーカレッジ(カラチ市内)  
現在99名の生徒が学び、8名の先生が教えている。

## 目次

### ●特集● パキスタン派遣報告

- ショーラットさんとの出会い . . . . . 2 ~ 3p
- 古着の行方を辿って . . . . . 4 ~ 5p
- 第57回送り出し報告 . . . . . 5p
- アル・カイルアカデミーに関わる人に聞く . 6 ~ 7p
- 1 招日報告「協力する関係をつくる」 . . . . . 8p

- 千葉センター便り「模様替え」 . . . . . 9p
- 東葛センター便り「視点を変える」 . . . . . 10p
- 心根(こころね)フリマ通信  
「心地よい場所・魅力ある場所」 . . . . . 11p
- チャエ ケ サート . . . . . 12p
- JFSA からのお知らせ . . . . . 12p

### 大きな変化

約4年ぶりのパキスタン訪問でした。4年前はキャンパスⅢができたばかりでしたが、今はキャンパスⅦまででき、子ども達や先生、スタッフの数も増え、学校の様子は大きく変わっていました。一方で、初めてアル・カイルアカデミーを訪問した時とても驚いた、小学校低学年の子どもたちが、おしゃべりもせず先生の授業を真剣に聞いている様子は、今も全く変わっていませんでした。その中でも、私たちが行くと、先生の見ている隙にちらっとこつちを見て、手を振ってきたりする子どももいます。そんな表情を見られると、子どもらしさを感じ、気持ち温かくなります。

もう一つ、大きく変わっていたことは、学校内にリサイクルショップができていたことです。ムザヒル校長は約1年半前から、学校の運営費を増やす試

みとして、家庭の不要なものを集めて販売するという事業を始めています。学校の活動について街頭演説をして、トラックで不要品を回収したり、学校でも回収しています。毎朝、沢山の荷物が本校に集まってきています。裕福な人からのものだったり、近所の人が持ってきたり、通勤の際に先生が持ってくる姿も見かけました。

### シヨールラットさん

学校内のリサイクルショップ「サスタバザール」は、直訳すると「安い市場」という意味です。本校の一室を使っており、約20畳ほどのスペースに衣類、カバン、靴、台所用品、オモチャ、本など、様々なリサイクル品が並んでいます。大きい電化製品や家具は、校門の外スペースで販売しています。この「サスタバザール」での業務全般を担当しているのが、シヨールラットさん（28歳女性）です。



サスタバザール店内

衣類や小物の売り上げは平均すると一日2500ルピー（2500円）くらい。大型家電や家具も入れると、一ヶ月約10万ルピー（10万円）の売り上げだそうです。

両親と8人の兄弟姉妹がおり、学校のすぐ近くで暮らしています。アル・カイルアカデミーで学んだ卒業生で、2006年から本校で先生をしています。約2年前から事務の仕事をするようになり、その頃からリサイクル品の回収が始まったため、品物の仕分けや販売を担当するようになったそうです。

彼女の一日の様子を聞きました。7時半に出勤します。家は

歩いて5分だそうです。まず、学校全体の見回りをし、その後、集まっているリサイクル品の仕分けを10時頃まで行ないます。途中、子どもを送って来た親たちがお店を見に来る時間帯があるので、店番もします。その後、販売用に仕分けした品物の陳列、入れ替え、接客などのお店の仕事を、学校が終わる17時まで行ないます。

千葉ショップ担当 大橋 紀子

5月8日（月）～5月18日（木）

## 学校の中のお店

しばらくお店を見てみると、学校のお昼休みになりました。学校は午前と午後の部で別れており、生徒が入れ替わります。送り迎えにきた親、休み時間の先生達、近所の人たちも来て店内はにぎわいます。ショーラットさんに「何か良いものは入ってる？」と尋ね、彼女もこんなものが入っているよと、お客さんが好きそうなものを奥から出してきます。それに対して、それは高すぎるとか、安くしてくれないか、という会話が飛び交います。JFSAのお店でも良く聞く会話だなあと、クスクスと笑ってしまいました。

学校の中にお店があるということは、親たちが交わる場、近所の人が学校を知る場、安心して買い物や仕事ができる場；など、たくさんの意味を持つ場であり、必要な場だと感じました。とは言っても、人通りの多い外のお店とは違い、待っているだけでは新しいお客さんはなかなか来ません。ショーラットさんは、お客さんと話をし、欲しいものが入って来たら電話をしたり、写メールを送ったりと

いう営業活動をマメに行なっています。そのことが、また来てもらえたり、友達を連れて来てくれたりということに少しずつ繋がっているようです。

## 古着マーケット見学

滞在中、カラチ市内の中古品を売っている、ライトハウスバザールを見に行く機会を設けました。JFSAから送る古着は、卸売業者にコンテナごと売っています。毎回AKBGと卸業者で価格交渉を行ない、決まった価格から経費を引いた利益が、学校の運営費として使われます。高く売るにはどうしたらいいのか、ということが毎回の課題です。そのため、卸売業者の売り先である小売りの現場を知ることが、価格交渉の際に強みになるのではないかと考えたからです。



ショーラットさん（中央）  
AKBG 事務局カウーン氏（左）  
大橋（右）

バザールには、衣類や下着、カバン、子ども服、靴；様々な中古品店がずらっと並んでいきます。それぞれのお店がお客さんの目を引くために、色とりどりの商品をきれいにディスプレイしています。女性の下着を山積みにして売っていたおじさんは、以前JFSAの物を仕入れて売ったことがあり、品質が良くとても好評だったと言っていました。

見学の際、なかなか外のお店を見る機会のないショーラットさんが、一緒に行けると良いのではないかと提案し、一緒に見て回ることができました。彼女も目を輝かせてお店の様子を見ていました。サスタバザールでもこうしたい、ああしたいと帰りの車の中で熱く話してくれました。サスタバザールは、始めたばかりでまだまだこれからですが、彼女の存在があれば、学校の運営費をつくるための事業として、しっかりと見込めるのではないかと思います。

## 初心に戻る

今回、ショーラットさんのお店に対する熱心さ、純粹さに触れ、私も初心に戻ることができ

た気がします。お客さんに喜んでほしいという気持ち、自分自身が楽しいという気持ちに純粹にしたがって行動すれば、自然と来客や売り上げに繋がっていくものだ、ということに改めて気づかされました。

生まれや育った環境は全く違いますが、同じような仕事をし、同じ楽しみを持つもの同士、今後も刺激し合って事業を作っていけるといいなと思います。次回行く時、サスタバザールがどのようなになっているか、とても楽しみです。



サスタバザールでは販売できない衣類を買い取りに来た業者さんとカットして、パッチワークの敷き物を作るところへ卸しているとのこと

## 古着の行方を辿って・・・

### 意気込み

私は古着輸出担当者として、回収した古着を選別・分類・梱包し、アル・カイルル事業グループ（以下、AKBG）にコンテナを送る業務を担当しています。AKBGは輸入したコンテナを卸業者にそのまま卸売りします。このスタイルは10年以上ほとんど変わらず行なわれてきました。一方でマーケットはさまざまな要因により変化しています。最近では、中国からの古着と低価格の新品衣類の輸入量が増えたため、古着相場に影響が出ていると卸業者のニアーズ氏は言っていました。JFSAに届いた古着の目的である子どもたちの利益をなるべく高められるように、従来通りの事業から変化が必要な時ではないだろうかとは考えています。AKBG・JFSAにはどんな事業の可能性があるのか・・・、それを考えるために、「バキスタンの古着マーケットについても

う一度知ろう！」という目的と心構えを持って向かいました。

### 事業の可能性

AKBG事務局のカユーム氏の案内のもと、「海外から古着を輸入する大手卸売業者から小売りをする人たち」まで、古着に関わる人や現場を実際に訪ね歩き着の流れの中でどのポジションの人がどんな役割を担っているか、どんな場所でのどんな物がどんな価格で売られているのかを自分自身で見聞きできたことは、古着市場について実感を持つことにつながりました。JFSAに届く古着等のクオリティを思い浮かべながら「同じような店を開けるのではないのか、こんな商売ができるのではないか・・・」等と考え、JFSAの品物とさまざまな選択肢（事業モデル）がつかないままにきました。また、改めて古着卸売業者が古着という素材を様々な方法「加工（種類はもち

ろん、季節や状態などで選別）、販路を築く等」で、価値を高め、利益を上げているモデルを目の当たりにしました。古着の活かし方を考える、工夫を

することで商売が生まれている。AKBG・JFSAはその主体になるポジションにいると感じました。簡単なことではなく課題も様々あると思います。



仲卸業者の倉庫にあったイングランドから輸入した中古子ども服の山  
これは選別（種類や品質で分ける）されて小売業者などに販売される

国内事業担当 入江 賢治

7月31日（月）～8月7日（月）

しかし、挑戦することは事業で学校運営を支えるというAKB G・J F S Aの事業目的そのものです。

今回の調査はマーケット全体の一端を垣間見ただけでした。一步を踏み出すには今後どんな調査が必要か、また何が課題か、具体的に検討していきたいと思えます。

**新しい出会い**

マシユリクセンター(古着小売店の集まった建物)を訪れた際には、小さなテナントの店番をしている若いお兄さんと話してきました。初めは私が商品の価格のことを一方的に聞いていました。買うわけでもないのに悪いなあという思いもあり、気まずい気もしました。その内に話題は日本のことやお互いの家族のことに興味が移り、ふっと少し気持ちが打ち解けた気がしました。

古着を通してこの人たちとつながり、この人たちの商売があるから、私たちの事業も成り立っている。そして、古着の仕事とともに私の暮らしも彼らの暮らしも支えられていることを感じました。古着調査をきっかけ



話をしたのは左側の若者  
商品の価格や仕入れ先のことを教えてくれた。  
写真を撮らせてと言うと、「兄貴と一緒に!」と



中古女性下着を売るおじさん  
「中古のブラジャー1枚130円くらいになるよ。」

けにいろいろな出会いがありました。これから先も人との出会いは私の気持ちを熱く、楽しくさせてくれる源になり、いろいろなことを気付かせてくれるに違いないと感じています。

## コンテナ積みこみ送り出し報告

第57回 6月28日(水) ボランティア44名 送り出し量24トン383kg



50kgのボールにラベルを貼っている  
これは青色なので高い品目

### 卸価格が高い品目

下着類、男性長袖シャツ・半袖類、子ども服(夏服)  
革ジャケット、靴、毛布、シーツ、タオルケット  
バッグ、タオル、カーテン、レースカーテン、生地  
ハンカチ、テーブルクロス

送り出しの作業には50kgになった衣類の塊(ボール)を動かす仕事とボールの中身が何かラベルを貼る仕事があります。

初めてこの作業に参加される方に説明するのが、ラベルの色です。ラベルには白と赤と青があります。白は1kg当たりの卸価格が安いもの、青は高いもの、赤はバッグ類(1kg約185ルピー)です。例えばハンカチは1kg450ルピーなので、1ボールで2万2500ルピー、マフラーは1kg35ルピーなので1750ルピー。同じ50kgでも違います。(1ルピー≒1円)

第57回のコンテナ積みこみでは、青色ラベルの毛布は31個(1550kg)、女性下着は7個(350kg)入りましたが、白色ラベルのマフラー(11個・550kg)、セーター(66個・3300kg)も多く入りました。

青色ラベルが多いと利益が増え、学校の運営資金も増えます。青色ラベルの品目は左の通りです。ご協力、よろしくお願ひします。

# 派遣報告



## アル・カイルルアカデミーに関わる人に聞く

アル・カイルルアカデミーの生徒の親の多くはマズドゥーリと言われる日雇いの労働現場(左官、塗装、配管など様々)やリキシャ(三輪タクシー)などのドライバ、引き売りなどの仕事をしています。

一方でムザヒル校長からここ数年、アル・カイルルアカデミーのカレッジ(※)を卒業後に大学へ進学する生徒も増えていると聞きました。そこで左官職人のヌールさんと、アル・カイルルアカデミー卒業後に大学へ進学したマフリーンさんにインタビューを行いました。

※カレッジ パキスタンでは初等5年、中等3年、準高等2年の10年学び、マトリックと呼ばれる試験を受けた後に入学する予科学校(高等2年)。カレッジで学ばないと、4年制大学には入学できない。(左下図参照)

### ●ヌール・ハッサンさん(32歳)

Q. 家族について教えてください。

私はバンジャールブ州出身です。実家は農家で麦や米などを作って



インタビューに答えてくれた  
ヌール・ハッサンさん

Q. 仕事について教えてください。  
兄も左官職人ですが、兄のところで働く関係が甘くなりしつかりと仕事を覚えることができないと思い、他の人から仕事を学ぶために親方のシャビールさんの元で



親方のシャビールさん

シャビールさんは学校へは通わず10歳で日雇いの仕事を始めて、15歳には左官仕事を覚えました。「読み書きはできないけど、仕事は完璧にやるよ!」と誇らしげに話ってくれました。

います。両親と姉、弟2人と妹1人は今も故郷に暮らしています。2人の兄と私はカラチで暮らしており、兄は左官職人とリキシャのドライバをしています。私の日中の仕事は左官職人ですが、妻と4人の息子と一緒に、アル・カイルルアカデミーのキャンパスVIに住込みで夜間警備の仕事もしています。息子達は皆キャンパスVIで学んでいます。」

働いています。給料は1日700ルピー(1ルピー約1円)で月に20〜25日は仕事があります。仕事は仲間でお互いに紹介し合っています。この仕事が好きです。  
Q. 生活費について教えてください。  
生活費は1ヶ月約1万2千〜1万5千ルピーです。キャンパスVIで暮らしているので、家賃がかからず助かっています。(仮にキャンパスVI周辺で家を借りると月3〜4千ルピー)

Q. もしあなたが病気になるなり、仕事が少なくて生活費が足りない時はどうするのですか? 親戚や知人から助けてもらうこともあるのですか?  
稀に人からお金を借りることもありますが、基本的にはそのような助けはありません。みんなも貧しいからです。お金が足りなければ、自分の食べる量を減らして子ども達が食べられるようにしてなんとかかしています。

同行者

株式会社 大地を守る会 豊島 洋氏  
8月7日(月)〜8月17日(木)  
海外事業担当 依知川 守  
8月7日(月)〜8月18日(金)

● マフリーンさん(20歳女性)

Q 家族構成を教えてください。

母と父、5人の兄、1人の妹、2人の弟、そして兄の家族も合わせ18人で一緒に暮らしています。2人の弟はアル・カイルアカデミーに通っています。

Q 家族は昔から本校の近所に住んでいるのですか？

私たちの家族はカラチから車で4時間ほどの町から2000年にここ(本校から徒歩で5分程)へ引っ越してきました。以前は父が家畜の仲買人をしていましたが、借金がかさみ、家族で引っ越すことを決意しました。その後カラチで働きながら、借金を返済しました。今は父と、上から4番目の兄までが、カラチ市内で野菜販売の店をそれぞれで営んで家計を支えています

Q 何を学んでいるのですか？

私と妹のアルファはアル・カイルアカデミーで学び、その後マトリックをパスしてカレッジまで通いました。私はカレッジ卒業後、大学へ進学して今は微生物学を専攻しています。アルファは今、カレッジで学びながら、大学進学(歯科専攻を希望)の準備をしています。

Q アル・カイルの生徒のようにスラム地域から大学へ進学する人は大変少ないと聞きます。周りの学生との生活環境の違いは何か問題になりますか？

私は家族の協力で、学費も十分に払っています。その意味では彼らとそんなに変わらないので問題はありませぬ。友達もいますよ！

彼女は真つ直ぐ力強い眼差しで答えました。彼女が家族の協力を得て、自ら学ぶことに喜びと誇りを持っていると感じました。一方、自力で大学進学が厳しい生徒にはアル・カイルアカデミーが支援をしています。

女性が進ぶということ、働くということ

タスニム副校長(※)

Q 男子と女子の進路にはどのような違いがありますか？

男子は特に問題はありません。頑張つて勉強し、進学すれば、良い仕事に就ける可能性もあります。一方で女子が教育を受けると『自分の子どもにも教育を』と教育の連鎖が生まれます。

しかし女子の進学はとても困難です。パキスタンでは、多くの人が早く結婚した方が良いと考えています。20歳を過ぎると適齢期とされ、25歳を過ぎると遅いと言われてしまうのです。仮に大学に進学し、卒業後直ぐに結婚できれば良いですが、さもなくば親も心配します。また結婚後は、夫の多くは妻に働かず家事をすることを求めます。環境によって多少の違いはあっても大差は無いと思います。この社会では妻は夫の判断に従わねばならないのです。

Q 女性の仕事について教えてください。

良い仕事のできる有能な女性も多くいます。パキスタン社会では非常に難しいことですが、女性が働ける社会になると良いと考えています。私たちの学校で印象的な出来事がありました。ゴミ捨て場のキャンパスIIの女子生徒ラズィアは、卒業後アル・カイルアカデミーで先生をしていました。しかし結婚後、夫に仕事を辞めるように言われてしまいました。私は分校長のカッシーフと相談して、彼女が仕事を続けることができるよう時間をかけて丁寧に夫を説得しました。結果的に夫はラズィアが先生の仕事を続けることを許しました。とても嬉しい出来事でした。ラズィアが先生を続けられるということは、教育の成果そのも

のであり、子どもや地域にとっての利益となることなのです。  
※1995年頃から数年間、先生としてアル・カイルアカデミーで働く。その後、ムザヒル氏と結婚。今は学校の運営に携わる。



カレッジで学ぶ女子生徒

図 パキスタンの教育制度

年齢	学年	学部	学校種類
22	18	医学部	私立学校
21	17	総合大学	
20	16		
19	15		
18	14	カレッジ(専門学校)	公立学校・私立学校
17	13		
16	12	高等学校	福祉学校 (アルカイルアカデミー)
15	11		
14	10		
13	9	中学校	公立学校・私立学校
12	8		
11	7	小学校	公立学校・私立学校
10	6		
9	5		
8	4	幼稚園	公立学校・私立学校
7	3		
6	2		
5	1	幼稚園	公立学校・私立学校
4	0		
3	0	幼稚園	公立学校・私立学校

# 招日報告

## 協力する関係をつくる

7月16日(日)の21時過ぎに、アル・カイルアカデミー校長ムザヒル氏が羽田空港に到着しました。7月24日までの1週間の滞在です。暑いカラチから来るので、滞在中は少しでも涼しければと思っていたのですが、気温の高い日が続いてしまいました。何度か「暑くて疲れませんか？」と尋ねましたが、ムザヒル氏は長旅の疲れも見せず「大丈夫です。とても気持ちが良いです。」と笑顔で答えてくれました。

### 古着の回収量と学校の運営

今回の招日では、回収協力団体を訪問して古着等の回収量が安定して続くことのたいせつさをあらためて皆さんに伝えたいと、招日の前に相談していただきました。今年度の回収量が、計画している130トンを大きく下回りそう、9月に予定している第58回の古着送り出しも心配される状況でした。アル・カイルアカデミーはこの2年間で新

しく4つの分校を開き、生徒や先生の数が増えて学校の運営にかかる費用は大きくなってきています。コンテナの到着が遅れるとその運営費も心配です。

団体の交流会でムザヒル氏は「JFSAといっしょに行なっている古着販売事業は、学校の運営を安定して支えています。それはとても大事なことで、皆さんの協力は特別なことです。」と改めて直接に呼びかけました。

※幸い、第3回の受付期間中の回収量もしっかりとあり、8月には夏祭り会場などで回収呼びかけができたこともあって、次回の送り出しは計画通りに実施できる見込みです。

### 平和な社会を作るために

学校の様子については、パキスタン社会では対立関係にある民族や宗教の違い子どもたち同士がいっしょに学ぶ中で、お互いを認め合いよい関係を作れていることがとても大事なことで話していました。アル・カ

イルアカデミーでは、マハジール、シンデイ、パンジャービー、パシユトウン、パローチ、サラエキー、パンガリーなどの民族の子達がいっしょに学んでいます。以前は、民族や宗教が違うといっしょに食事をすることも避けていたそうです。子どもたちも親たちも、そして先生たちの間でも諍いがあったといえます。しかし次第に変わっていつて、今ではほとんどそうしたこととはなくなっています。「どうして変わったのですか？」と尋ねると、「変わるようにトレーニングをしています。」とムザヒル氏はきつぱりと答えました。ムザヒル氏の家族は、パキスタンがイギリスから分離独立したときに北インドからパキスタンに移ってきて、ダドゥという農村都市で暮らしていました。幼いころから人々が民族や宗教の違いでいがみ合うことがとてもいやだと感じていたと言います。

「平和な社会を作るために

は、教育はともたいたせつです。アル・カイルアカデミーで子どもたちが学んでいく中で、民族や宗教の違いで争うことなく、互いに協力する関係を作ることで、それが社会を変えていくこととなります。」とムザヒル氏は語ってくれました。



学校の様子を伝えるムザヒル氏(生活クラブ茨城・牛久センターにて)

協働事業担当 田邊 紀子



# 千葉センターだより

## 模様替え中

千葉ショップ担当 大橋 紀子

8月、とても暑い日が続いた合間の小雨が降る日、店内の模様替えをしました。男性物の売り場と、子ども服の売り場を入れ替えるという大がかりなものです。

私がJFSAに入った10数年前は、お客さんの8~9割くらいは女性でした。それからだんだんと男性のお客さんが増えてきて、今では4割くらいが男性です。新しく若い男性がアルバイトスタッフで入ったこともあり、このあたりで男性物に一度力を入れて、新しいお客さんを増やせるようにしようと思い立ち、模様替えをしました。男性物の衣類だけでなく、カバンや靴、下着や靴下などの雑貨類も合わせて陳列し、これまでより商品数も増やし、セールに合わせて新しい売り場としてオープンしました。倉庫なので暑いという声もありますが、通りがかりの方が初めて入って下さったり、入りやすくなったという声があったり、ズボン売り場が見やすくなり以前より売れるようにもなりました。また、驚いたことに、ディスプレイとして飾っていて、7、8年売れずにいた革ジャケットが、模様替えをしてすぐに売れました。慣れ親しんだ場所やこれまでであるものも、違う角度から見ると、新たな発見があったり、違う見え方をすることもあったんだと、定期的な模様替えは必要でとても大事なことなんだ、と気づかされました。

この模様替えにはまだ続きがあります。今後さらに倉庫スペースの売り場を改装し、これまで主に柏店で扱っていた輸入古着も、秋冬から千葉にも置く計画をしています。倉庫の大家さんの協力もあり、改装のた

めの資材をいただきました。また、外にも座って休めてちょっとお茶を飲んだりできるスペースを作りたいと考えています。

よく買い物に来てくださるご夫婦の旦那さんが、「この店は、私のクローゼットだよ」と言っていたことがあります。家のようにくつろいだ気持ちで着るものを選ぶ場、という意味だといいなあと感じています。

様々なものが機械化や効率化していて、街中に出るとゆったりとくつろいだ気持ちになれる場所はとても減っているように感じます。私自身、2歳の子どもを連れて出かけている時は、合間にちょっと休みたいなーと思い、そのような場所を探したりします。お店そのものがくつろげる場であったり、ちょっと休める場が店先にあたり、そんな場所を作るには…と日々考えており、近日中に改装予定です。



倉庫の中に移動したメンズコーナー

JFSA 千葉ショップ OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

- ☆住所 千葉市中央区都町 3-14-10
- ☆電話・ファックス 043-234-1206
- ☆アクセス
- ★JR千葉駅東口より1番乗り場のバスに乗り『都町球場入口』下車。徒歩1分。100円ショップダイソー裏。
- ★駐車場もあります。お車でどうぞ。



## 東葛センターだより

### 視点を変える

「5分間こねて焼いたチャパティより、20分間こねたものの方が柔らかい。それはなぜか？」

来日していたムザヒル校長が、交流会に来ていた小学5年生の少年に出した問題です。チャパティとは、全粒粉と水をこねて生地を作り、発酵させずに薄い円形に伸ばして焼いたものです。カレーと一緒に食べます。同じようなものとしてカレー屋さんでおなじみのナンは、生地を発酵させてタンドールという窯で焼きます。パキスタンでも普通家庭に窯は無いので、ナン屋さんで買ってきます。チャパティは家庭で作れます。それ専用のタワーという鉄板で焼いて、そのあと直火で焼くとぶくつと膨らみます。

少年は紙とペンを持ってきて、いろいろな絵を書いてムザヒル校長に答えを出していましたが、残念ながら正解にはたどり着けなかったようです。

「長くこねたものの方が、中から空気が抜けて熱の伝わり方が均一になり、それで柔らかくなるんだよ。これが科学だよ。」

ムザヒル校長の答えを聞いた少年は面白がり、次の問題を求めていました。学生時代に数式だけでなくこういう問題で教われれば、もっと意欲的に勉強に取り組めただろうかと個人的に思いました。

どうしたって過去は変わりませんが、これからの課題に対する取り組み方は変えられます。回収量、作業の進捗、予算、一年間の仕事は数字で計ります。達成できた時、できなかった時にわかりやすいのですが、事務的で冷たくも感じることもあります。店舗で売上が悪い

古着ショップ kapre (カブレ) 担当 田辺 航太郎

時があります。そうした時は数字を眺めて落ち込みます。

しかし、よくよく店の中を眺めてみると、数字を裏付けるような実態が見えてきます。朝晩涼しくなってきた今の時期に欲しいものがあまり並んでいなかったり、よく売れたものの補充ができていなかったりします。身近な仕事の中で順序良く仕事を進めて行くことに気を取られ、店としての役割、お客さんが欲しいと思う気持ちに応えるということができていないと、そうした結果になってしまいます。

「私の母は、いつも柔らかいチャパティを作ってくれました。私はいつもそれをおいしいと思いつけていました。」問題の答えの後、ムザヒルさんはそう付け加えました。課題に対して、身近な人がおいしい、つまり喜べる結果につながるような視点をもって取り組んでいけるようにしていきたいと思いました。



給食のチャパティとカレーを食べている生徒たち

JFSA 古着ショップ kapre (カブレ) OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

☆住所 柏市大室 176-1

☆電話・ファックス 04-7110-0984

☆ホームページ

<http://jfsa.sakura.ne.jp/mysite1/newpage1.html>

☆オンラインストア

<http://kapreonline.theshop.jp/>

☆アクセス

★つくばE×線「柏たなか」駅 徒歩 10分。

★柏駅西口バス乗り場 5番乗り場03系統「柏市立高校」行「大室」バス停から徒歩 1分。

★駐車場もあります。お車でどうぞ



## 心根（こころね）フリマ通信

### 心地よい場所、魅力ある場所

街商担当 依知川 守

「いや～、この売り場に来ると親戚に会うような気持ちになるよ！」8月の赤羽公園のフリマでお客様に頂いた言葉です。赤羽公園にはかれこれ20年ほど出店していますが、このように親しみを感じていただけるのはとても嬉しいことです。

自宅や職場(学校)では無く、第3の心地よい場所を指す「サード・プレイス」という言葉があり、地域で居場所を作る際などにも使われています。私は「サード・プレイス」と呼ぶかどうかは別として、フリマにはお客様・出店者双方にとって「居場所」となる大切な要素が含まれていると感じています。フリマや露店は一般的なお店とは違い、壁や扉もない開けっぴろげな売り場。価格交渉のあるフリマは、最終的にはお互い折り合いのつくところで商品とお金が行き交う空間です。そんな売り買いの場だからこそ、自然と程よい距離を保ちながら生まれるコミュニケーションがあると思うのです。家族や友人とは違い、名前も知らない間柄だからこそ思わず口にしてしまうグチも、気づいたらお互いにグチを言い合っていたりもします。

フリーマーケットという言葉が一般化した一方で、出店者や主催者と「ここ数年、同じことの繰り返しで内容がマ

ンネリ化してきたね」と話すこともあるのですが、フリマの存在価値は、この居場所ということも大きいと感じています。

この日の赤羽公園では、常連のバングラディッシュ人のイスラム教徒の男性がサウジアラビアのメッカへ巡礼する「ハッジ」のために黒いスーツケースを買ってくれました。様々な宗教、人種、年齢、性別の人々が混ざる居場所は理屈抜きに魅力のある場所です。



本校の前で軽食を売る露天 休憩時間になると生徒で溢れる帰っても遊ぶ時間はあまりない子ども達にとって、ここはサードプレイスかもしれません。「写真を撮らせて」と声をかけると「いいよ。ほら一個食べて行きなよ!」と気さくな店主たち。

### 3の秋イオン

## フリーマーケット&イベント出店会場

11月11日(土)・12日(日) 大古着市 JR船橋駅北口デッキ(東武デパート側) ※雨天中止※

11月26日(日) ぼっほの市 稲岸公園(汽車ぼっほ公園 千葉市美浜区) ※雨天時は稲浜公民館での縮小開催予定※  
→Facebookページ [www.facebook.com/popponoichi](http://www.facebook.com/popponoichi)

10月7日(土)・11月4日(土) 和衣マルシェちば(リサイクル着物市)  
千葉市中央区富士見2-12-4 まる空間  
→Facebookページ [www.facebook.com/waimarchechiba](http://www.facebook.com/waimarchechiba)

毎月第一土曜日開催!

♪JFSA出店♪ 都内・千葉県内のフリーマーケット会場

- 赤羽公園・池袋西口公園・新宿中央公園・世田谷公園・大井競馬場・津田沼公園・千葉銀座通りなど
- 詳しい出店情報は、こちらからご覧いただけます。→ ホームページ [www.jfsajpn.org/fj](http://www.jfsajpn.org/fj)

ボランティアも募集中～!



### ★JFSA主催・チャリティバザール★ 10時～15時

●千葉センター 12月10日(日)  
場所: JFSA千葉センター&大田切公園  
(千葉市中央区都町3-14-10)

●東葛センター 12月17日(日)  
場所: JFSA東葛センター  
(柏市大室176-1)

# 音楽は香りのようなもの

## ムースィーキーブー キタラー

# チャエケ サート



●チャエケサートの意味は・・・

パキスタンの公用語、ウルドゥー語で「チャエケ」は「温かいミルクティー（チャイ）、ゲ サート」は「一緒に」で「チャイと一緒に」という意味になります。パキスタンではチャイを飲みながら、賑やかにしゃべりを楽しみます。

人に何かを「伝える」と言つのは、簡単なようで難しいことです。そんな「伝える」ことについて、パキスタンで印象に残った言葉があります。サリームさん（67歳）はプロのミュージシャンですが、給料は安く暮らしは厳しいそうです。歌の上手な息子がアル・カイルアカデミーに通っています。サリームさんのお祖父さんもお父さんもおインド時代の軍人で、今は弟が軍隊で働いているそうです。

「私も軍隊に入りたかったけど、2・5インチ（約6・3cm）身長が足りず断念してミュージシャンになりました。」担当楽器はハルモニウムという伝統音楽で使われるオルガン。他にキーボードとタブラ（伝統音楽で使われる太鼓）のメンバー2名と共にホテルで夜演奏しています。

「イスラムでは人を愛することが大切な教えです。私の仕事は、人々に喜びを与えるものでよい仕事だと思っています。人の気持ちにどうしたら届くのか、考えながら演奏しています。この仕事は感覚の仕事だから、絵や文字で表せません。それは香りのように難しいです。」



サリームさんの息子（左）サリームさん（左）AKBG事務局のカユム氏（右）

## JFSAの会員・支援メンバーとして 活動にご参加ください

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。（正会員：151名 賛助会員：1179名）正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。

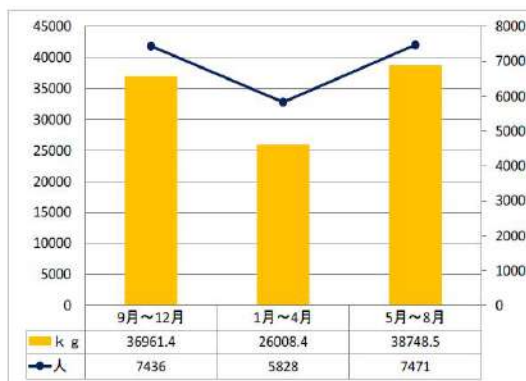
10月より新年度（2017年度）が始まります。皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）サポーターグッズなどをお送りします。

- 年会費（10月～翌年9月）  
個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円  
団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

- 会費振込み口座（郵便振替）  
番号：00160-7-444198  
口座名：JFSA  
\*活動への寄付にも同じ口座をご利用できます。  
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

今年度（2016.09～2017.08）も多くの方が  
“JFSAの古着や毛布の回収”に参加しました



9月27日（水）に今年度4回目の送り出しを行なう予定です。24トン以上の古着や毛布を積みこみ、1年間で約100トンの古着を輸出する予定です。

## JFSAでのボランティアのご案内

### ★ボランティアに関する問合せ先

- JFSA事務局（木曜定休 9時～19時半）  
電話・FAX：043-234-1206  
メール：jfsa@f3.dion.ne.jp  
ホームページ：www.jfsa.jp.org  
\*ボランティアは無償です。  
交通費や食費はご自分で負担していただいています。

- コンテナ送り出し作業（年4回）
- イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業（年3・4回）
- 古着の選別体験（グループ対応）
- 和服整理ボランティア  
（毎月第1水曜日 10時半～）  
ボランティアご希望の方はお気軽にお問合せください

### NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時半／木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町 3-14-10 東葛センター 柏市大室 176-1  
Tel：043-234-1206 Tel：04-7110-0984

★会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://www.jfsa.jp.org



JFSAのホームページ  
QRコード